

# 19世紀 女王陛下のタイル

Victorian Tile

author 辻 孝二郎 | Kojiro Tsuji

つじ・こうじろう — INAXライブミュージアム館長/1948年生まれ。1971年、早稲田大学卒業。同年、INAX(現LIXIL)入社。営業、商品企画、XSITEHILL、広告宣伝部を経て、2005年より現職。

— 5,000年にわたるタイルの世界史の中でも、19世紀のイギリスでつくられたタイルほど華やかで美しいものはない。産業革命や多くの植民地経営の賜物でもあるが、富や経済だけが生み出したものではない。美を貪欲なまでに追求した時代で、住宅、ビルでさまざまなインテリアや装飾が実現し、その精神は今に生きている。ヴィクトリアン・タイルは、女王が賞賛したため「女王陛下のタイル」と呼ばれるようになり、女王(ヴィクトリア)の名を冠した唯一のタイル群である。

1



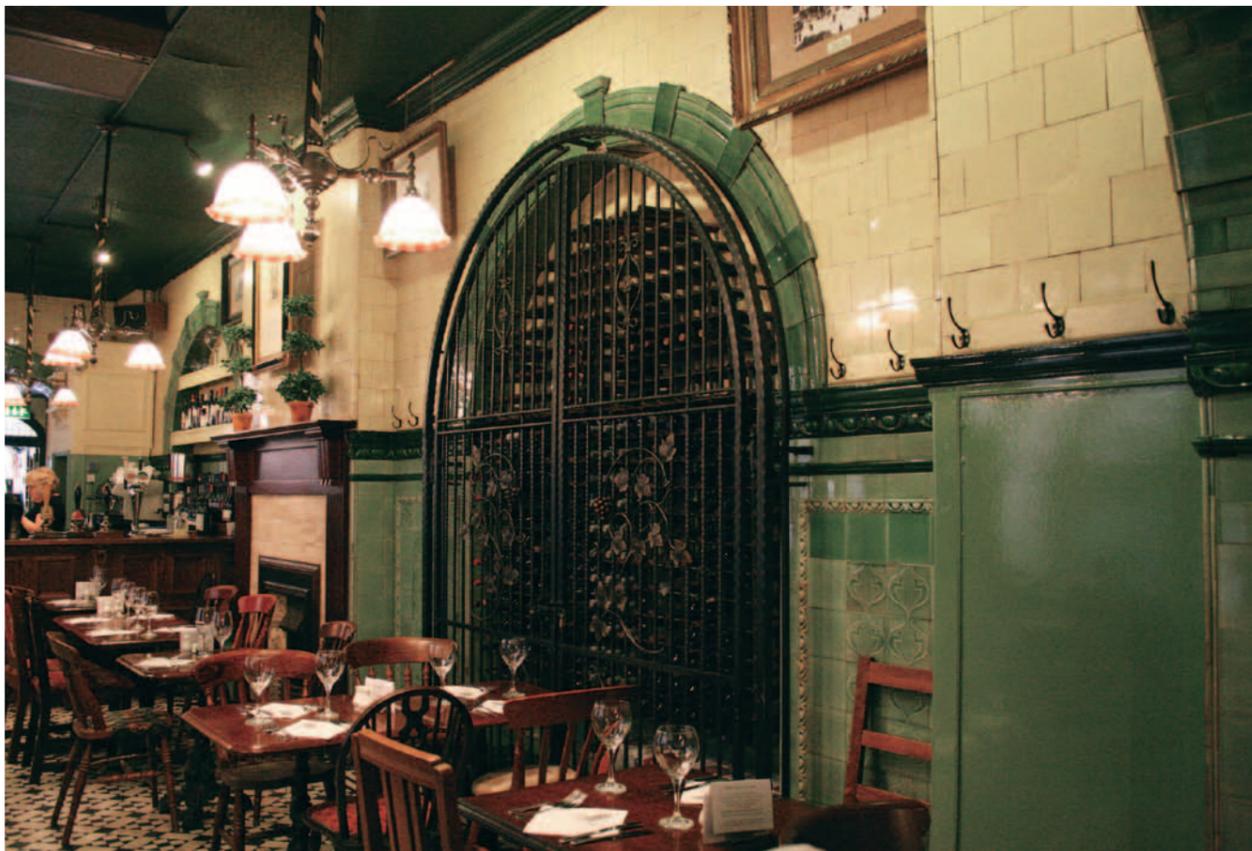
### [タイルのある風景]

Mr. Thomas's Chop House ——— 1,2

19世紀のヴィクトリア様式の建物が数多く残るまちをヴィクトリアン・シティという。マンチェスターもそのひとつで、ここは中心部にある代表的なチョップハウス(軽食堂)。1867年に完成したもの。入り口左右に「A Victorian Fantasy」と記されている。美しいタイルと、豊かな体型に明るい笑顔を持つ女主人は、今も古き良きヴィクトリア時代を生きているようだ

1—外観:当時のタイルでは、内外ともマホガニー色が多く使われる。こちらのテラコッタも伝統的なマホガニー色で構成されている | 2—店内:内部は総タイル張りだが、伝統的なブリティッシュグリーン(後述)を壁に使用。日本が明治維新の頃、イギリスではこういう空間を楽しんでいた

2



### [タイルの装飾技法]

19世紀にタイルの工業化が確立する。今は高級食器のブランドとして残るミントンやウェッジウッドがタイル工業化の先鞭をつけたが、完成度は高く、そのつくり方は今もあまり変わっていない。多様なタイル装飾技法が確立され、象嵌タイル(前号参照)、転写紙を使って量産する銅版転写タイル、輪郭線を金型で浮き彫りにしたチューブライニングタイル、さらに立体的な凹凸をつけるレリーフタイルなどがある。色釉も無数に開発され、多彩な表現が可能になった

3—単彩ユリ文象嵌タイル[19世紀後半/106×106×11mm] | 4—単彩草花文銅版転写タイル[19世紀末/153×153×10mm] | 5—多彩草花文チューブライニングタイル[19世紀末/152×152×10mm] | 6—単彩草花文レリーフタイル[19世紀末/152×152×11mm] | いずれも制作地はイギリス

### [当時の2大ブランド]

ミントンは1856年、王室御用達の窯とされ、華麗な色とデザインを特徴としている。またウェッジウッドは繊細で品のあるデザインが特徴で、「世界の王侯に愛されたウェッジウッド」のコピーには説得力がある。食器の世界で、紅茶の色を美しく見せる、やや暖色を帯びた白磁を開発し、クイーンズウェア(女王の陶器)という称号を戴くなど、両社とも王室との関係は深い

7—多彩草花文象嵌タイル[19世紀中期/153×153×24mm/ミントン製] | 8—単彩草花文銅版転写タイル[19世紀末/153×153×10mm/ウェッジウッド製] | いずれも制作地はイギリス(写真は4枚のタイルを組み合わせた状態)

### [タイルのデザイン]

当時の装飾タイルは、シンメトリーを基本として展開する。シンメトリーは、家具などに単独で張られた場合も、壁など面として同じ柄を並べて張った場合も、建築空間とマッチする。ヴィクトリアン・タイルは20世紀初期まで多様なデザイン(イスラム文様、アールヌーヴォー、アールデコなど)を取り込んで発展するが、シンメトリーの基本は変わっていない。そこに突如として破調のデザインが現れる。ロンドンやパリ万博におけるジャポニズムの影響と言われているが、余白を残す非対称のデザインは、当館のヴィクトリアン・タイルコレクションの中では際立っている

9—多彩バラ文チューブライニングタイル[151×151×9mm] | 10—多彩バラ文チューブライニングタイル[152×152×9mm] | いずれも制作時期は19世紀末、制作地はイギリス

### [タイルの図柄]

イギリス人が愛した色は、銅を使って発色させる深い緑で「ブリティッシュグリーン」とも言われ、多くのタイルに使われている。また柄は植物、特に花柄が多く、ガーデニング発祥の地を彷彿させる

11—単彩バラ文レリーフタイル[152×152×10mm] | 12—単彩草花文レリーフタイル[151×151×11mm] | いずれも制作時期は19世紀末、制作地はイギリス

### [世界のタイル博物館1階常設展示室]

世界のタイル博物館の一角に、イギリスのパブを再現したヴィクトリアン・タイルのコーナーがあり、多くのお客さまが楽しんでいる

13—腰壁:ジャック・フィールド製復元タイル、床:INAX特注タイル

— ここで紹介しているタイルは「世界のタイル博物館」で常設展示しています。



3,4



5,6



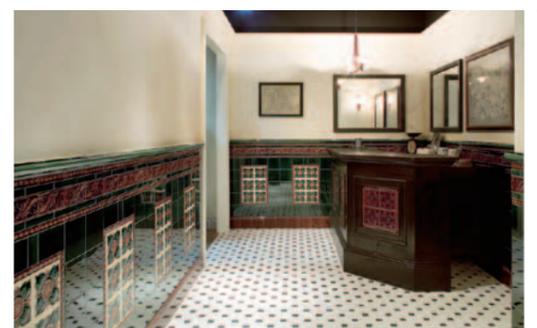
7,8



9,10



11,12



13